

SHIP 通信



県立麻生支援学校
支援連携グループ

No.1

令和8年6月 発行

県立麻生支援学校 地域支援センターSHIP(シップ)です!

地域支援センターSHIPは、麻生支援学校の「教育相談・地域支援担当(教育相談コーディネーター、自立活動教諭)」「移行支援担当」の教員で構成されています。SHIP通信は、主に『地域支援センターSHIP』の事業に関するお知らせを掲載しています。

教育相談・地域支援担当から

こんなお悩みありませんか?

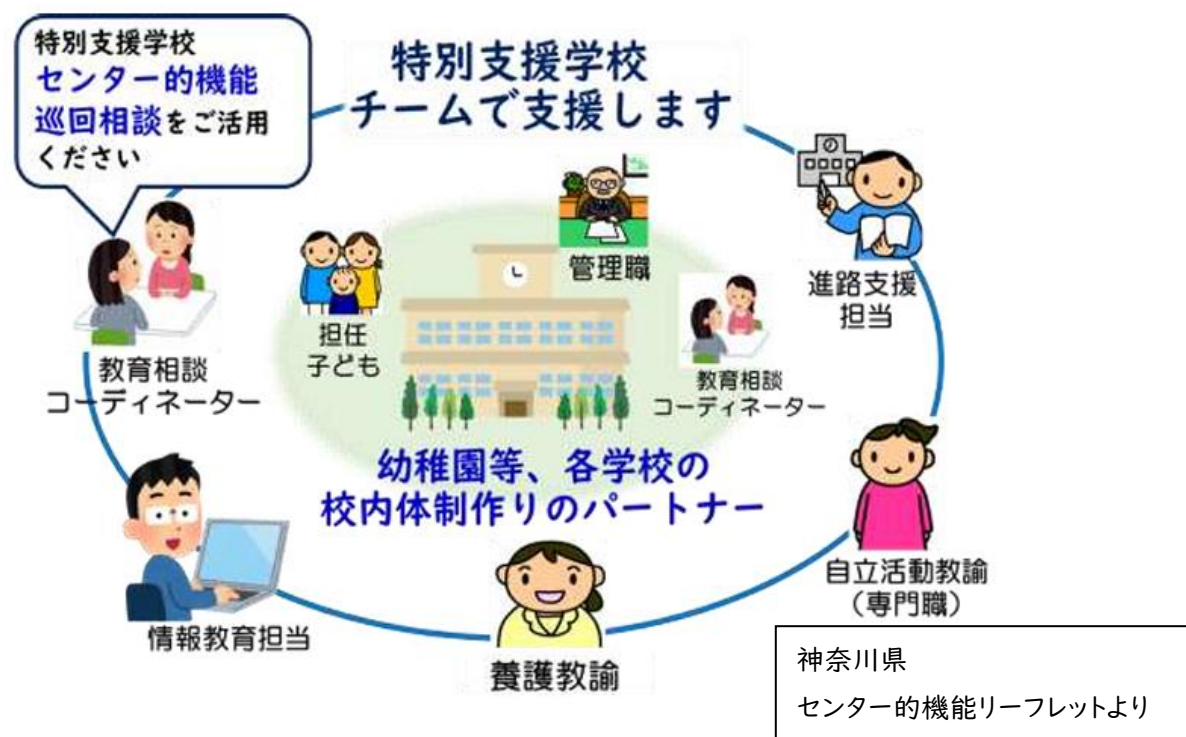
個別教育計画に
何を書こう?

教室環境を
どう整備しよう?

姿勢を保持する
ための工夫は?

手指の巧緻性を
高めるために
何をしよう?

◎教育相談・地域支援担当は、校内の教育相談コーディネーターと自立活動教諭が窓口となり、子どもたちの教育的ニーズに応じて、校内や地域の支援機関と連携した様々なサポートを行います。



メンバー



支援連携グループリーダー
しのだ 篠田

教育相談・地域支援担当のまとめ役。PTAも担当しています。



教育相談コーディネーター
かいほら どひ 貝原・土肥

校内、校外の相談窓口です。地域の支援機関との調整役も行っています。



作業療法士(OT) ほんま 本間

学習や生活、遊び、手先を使った動作など様々な活動の支援を一緒に考えていきます。



理学療法士(PT) まわたり 馬渡

身体の特徴を捉え、補装具(車いすなど)などの環境設定について一緒に考えていきます。

相談について

地域の方なら、どなたでも無料でご利用できます。

(対象地域:川崎市麻生区・多摩区、横浜市青葉区)

①電話相談

電話でお話を伺います。
匿名での相談もお受けします。



②来校相談

来校していただき直接お話を伺います。
事前にお電話で日程調整をします。

③学校訪問相談

地域の学校等からの要請を受けて訪問します。
子どもの様子を見立て、先生方と一緒に支援方法を検討します。
※要請により特別支援教育に関する講座・研修会を行うこともできます。



※個人情報をご本人及び保護者の了承を得ず他の目的に使用することはありません。

TEL:044-980-4854 (平日9:00~16:30)

★「SHIP(シップ)」の名称の由来★

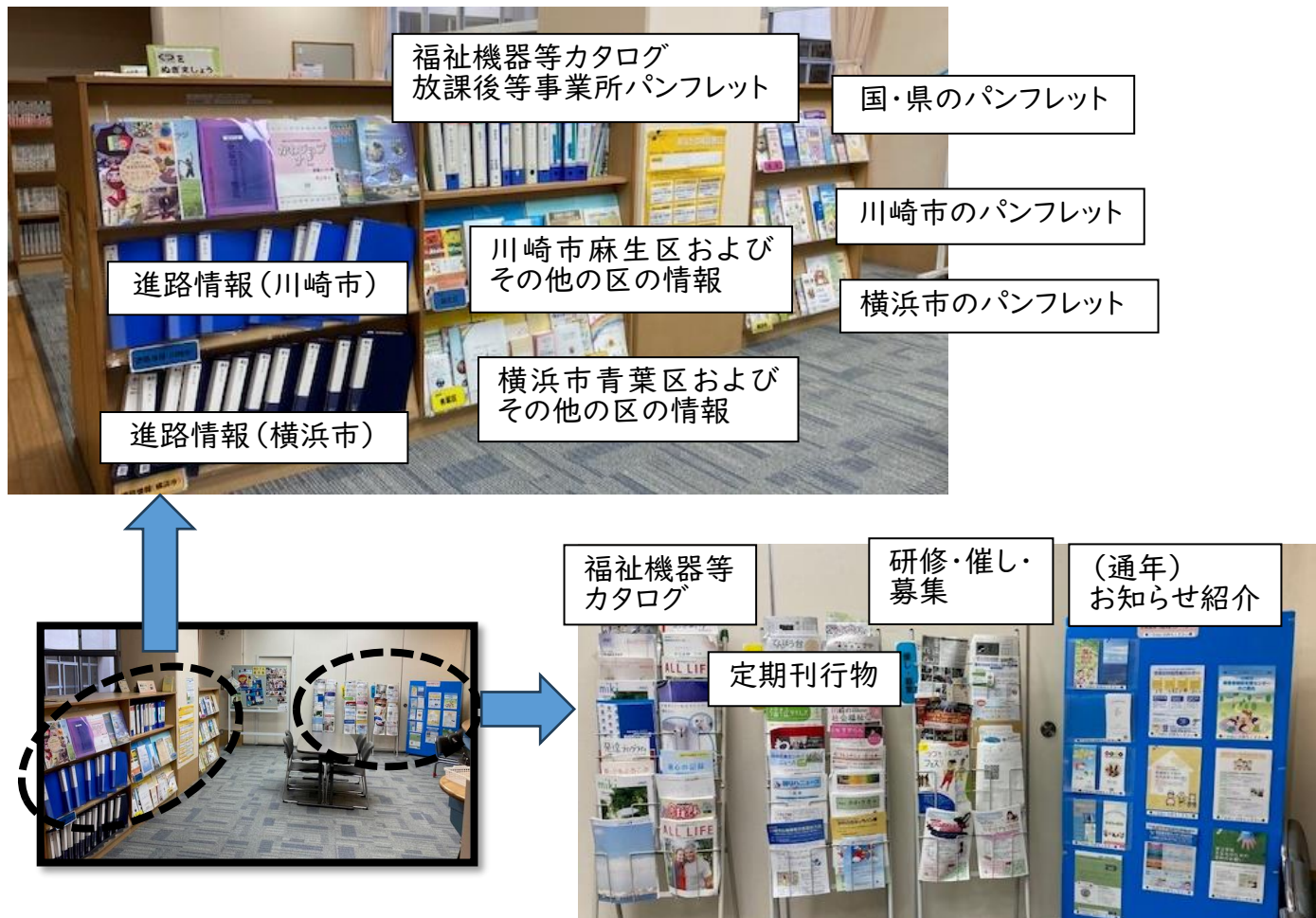
笑顔(Smile) 希望(Hope) 関わり(Interaction)を、支援の必要な子どもたちへ(For People with special needs)という思いを込めています。子どもたちが自信をもって社会の大海原へ出て行くことができるように支援します。



情報コーナーの紹介

麻生校舎1階昇降口前の図書コーナーに、福祉事業所のパンフレットや地域の広報誌を置いています。奥の壁側にある掲示板とラックは、特別支援教育に関する研修会やイベント等のお知らせ・チラシを掲示しています。情報コーナーのレイアウト写真を掲載しましたので、お越しの際にはぜひ御覧ください♪

《情報コーナー（麻生校舎1階昇降口前）》



海外への子ども用車いすの寄贈

本校の在校生や卒業生の皆様より寄贈していただき、校内で十分に活用させていただいた各種車いすや座位保持機能付きバギー等、合計32台を、『NPO法人 海外に子ども用車椅子を送る会』を通じて海外の子どもたちに寄贈いたしました。これらの車いすは、今後国内にて清掃およびメンテナンスが行われた後、子ども用車いすを必要とする地域へ発送される予定です。寄贈していただきました皆様の温かい御厚意に、心より感謝申し上げます。



移行支援担当から

♪令和8年度のメンバー紹介♪

よろしくお願いします★

麻生校舎担当が ^{まき}牧、^{うめはら}梅原、^{あんぼ}安保、元石川分教室担当が ^{よこぜき}横関 の計4名です。

進路について、いろいろわからない事、不安な事があると思います。ささいな事でも大丈夫ですので、御質問等ありましたら、遠慮なく連絡帳や直接お電話等でお問い合わせください。

令和7年度卒業生の進路先

昨年度も、校内実習や学校生活、御家庭で学んだことを現場実習等で発揮できたことや、保護者の皆様の多大な御協力を頂くことで進路先を決めることができました。



	生活介護	就労継続支援 ／就労移行	能開校/ 能開センター	企業就労	その他
A部門	3名	1名			
B部門	15名	9名	1名	2名	2名
元石川分教室		3名	1名	7名	

- 生活介護事業所利用に関しては、肢体不自由の方（車いす利用）の受け入れができる施設は多くはなく、医療的ケアのある方を受け入れることができる施設はさらに少なくなります。受入状況はその年により変わりますが、昨年度は2～3ヶ所実習した事業所で受入の検討をしていただきました。
- 生活介護事業所の通所に際して、事業所の送迎車の利用ができるかどうかは、通所利用が決まってからその後、事業所との相談になります。通所利用自体も簡単ではないですが、送迎車の利用についても依然として厳しい状況ではあります。状況によっては、実習先を変更していくなど柔軟に検討できると良いと感じることもありました。
- 福祉事業所通所の卒業生へのアフターフォローとして、夏季休業期間中に元担任が様子を見に伺う予定です。学校での生活から進路先にどのように移行しているかを見学し、御本人の様子などをお聞きしています。また、企業就労された卒業生へもアフターフォローとして進路先の企業と連携をとっています。



今年度のサタデーセミナーは、「卒業後の暮らしについて(仮)」です。12月初旬の土曜日開催を計画しています。2学期に改めてお知らせを配付いたします。奮って御参加ください。

次号は9月に発行予定です♪

